

平成28年度 第4回石狩市地場企業等活性化審議会議事録

日 時 平成29年2月21日（火） 14:00～15:00

場 所 石狩市役所3階庁議室

出席者 委 員：北山雀会長、酒井志津子副会長、山本浩二委員、高梨朝靖委員、
渡辺百美子委員、木村秀裕委員、鈴木いずみ委員

石狩市：企画経済部産業振興担当部長 百井宏己

商工労働観光課 課長 小島 工

商工労働観光課 主査 中野 映

商工労働観光課 主任 河田寛史

商工労働観光課 観光担当課長 板谷 英郁

農政課 主幹 吉田 雅人

傍聴者 1名

＝＝

【事務局（小島課長）】

ただ今から、本年度第4回目になります石狩市地場企業等活性化審議会を開催させていただきます。
本日は私ども事務局の他に、本年度産業関連4計画ということで、農業振興計画、漁業振興計画、観光振興計画を策定しておりまして、観光担当課長の板谷と、農政課主幹の吉田が同席しておりますのでよろしくお願いいたします。

早速ですが、議事に入らせて頂きたいと思います。議事進行については北山会長にお願いしたいと思っておりますが、本日の会議時間概ね1時間程度を目安にしておりますので、よろしくお願いいたします。

【北山会長】

それでは早速、議事を進めて参りたいと思います。今日の議題は手元の次第にありますとおり、2つありまして、1つ目の議題ですが、第4次計画最終案ということで、これにつきましてまず事務局の方からご説明をお願いいたします。

【事務局（河田主任）】

それでは、お手元の資料1「石狩市地場企業等活性化計画 第4次計画（最終案）」をご覧ください。

前回、11月28日の第3回目の審議会で計画原案をご了承頂いた後、12月20日から1月20日にかけての1ヶ月間、パブリックコメントを実施させていただきました。

パブリックコメントの実施結果として、特段意見の提出がなかったことから、本日お配りしている最終案について、前回の原案から大きな変更点はございません。ただ、一部文言修正や図表の改善、注釈の追記などを行っている箇所がいくつかございますので、その部分についてご説明をさせていただきます。

まずは、5ページをご覧ください。

上から5行目ですが、来年オープン予定の道の駅の名称を「あいろーど厚田」に変更しております。この名称は、この後第1回定例市議会に提案予定となっており、議会の議決を経ての正式決定とはなりますが、現時点での名称ということでこの部分を修正させて頂いております。

次のその下の図表3でございますが、2015年の総人口、前回までは速報値を掲載させて頂いておりますが、確定値が公表されたことを受け、前回57,462人となっていたものを確定値の57,436人と人口数を修正させて頂いております。

なお、人口数については、26ページの資料1も併せて修正しております。

次に、6ページをご覧ください。

真ん中あたりにあります図表6ですが、上から「地域内消費額」「民間（住民）消費額」、「地域流入額」という項目を追加させて頂き、流入額の額が把握できるようにいたしました。

次に9ページをご覧ください。

ページ下の図表9ですが、本グラフの出典元といたしまして、グラフの下の「資料」という欄に「商業統計調査」と記載がありますが、平成24年の数値については、「経済センサス活動調査」が出典元となりますことから、その一文を追記しておりますとともに、同様の記述を8ページの下から3行目にも記しております。

次に11ページの図表12をご覧ください。

上段の表の平成22年の欄ですが、上から2段目の「石狩市で就業」と3段目の「他市町村で就業」を合計しても、1段目の「石狩市に常住する従業者」と一致しません。

これは、就業地不詳者が存在するためございまして、その一文を表の下に米印で追記しております。

次に21ページをご覧ください。

「(7) 後継者対策の強化」の部分の2行目に記述のある「UIJ ターン」についての注釈を、下段に米印で追記しております。

以上が前回からの主な変更点でございまして、この他、冒頭申しました各図表をより見やすくするための改善を加えております。

続いて、本計画策定にも大きく関連します「石狩市産業振興関連計画策定委員連絡調整会議」について、課長の小島よりご説明いたします。

【事務局（小島課長）】

今年度、先ほども申し上げましたが、産業振興関連計画の4つの計画を策定するという事で、それぞれの策定委員会から委員さんを出して頂きまして、産業振興関連計画策定委員の連絡調整会議というものを開催しております。2月6日に第2回目を開催させて頂きまして、私ども地場企業等活性化審議会からは、北山会長はご欠席だったんですけども、酒井副会長にご出席頂きまして、その他の策定委員会からも委員さんに出席頂きまして、今回のパブリックコメントの結果、それからそれに伴う修正箇所等の説明を行い、それに対し出席委員の皆様から全体の計画についてご意見を頂いております。この後、私どもの新年度事業についても説明させて頂きますが、その説明も若干させて頂いたところ、委員の方から、私ども地場企業等活性化計画につきましては、他の産業振興計画も全てそうですが、いろいろな産業の関わりというものが出てくるので、例えば商業分野だ

けではなく、農業・漁業だけでもなく、様々な産業の関わりが出てくることから、幅広い視点での検討が必要ではないか、という意見を頂いております。

合わせまして、今後の担い手の部分ですね、私ども新年度で「地域担い手確保・育成プロジェクト」という事業の実施を計画しておりますけれども、いわゆる各産業分野において、人手不足・人材不足ということが言われておりまして、これらの担い手確保対策などについての各産業分野にまたがった取り組み・政策展開が必要である、といった意見も頂いております。私どもも、新年度におきましては産業振興関連の 4 つの計画を実行していくために、その進行管理ですとか、具体的な調整を行う組織を引き続き担っていきたいと考えております。

本年度の連絡調整会議は、前回の 2 月 6 日の会議で終了になりますが、新年度も構成団体からメンバーを出して頂きまして、組織をつくって、それぞれの計画の進行管理ですとか調整にあたっていきたいと考えておりますのでよろしくお願いしたいと思います。私からの説明は以上ですが、酒井副会長が会議に出られてましたので、商店街に関するご意見も頂いてましたので、ご報告をお願いしたいと思います。

【酒井副会長】

商店街も大変な時代で、後継者、この辺が結構問題になってきてまして、お客さんがいなければ店を閉じるという中で、やはり市の方も、いろいろ河田さんも一生懸命動いてらっしゃって、いろいろな良い意見が出てて期待はしているところなんですけれども、とにかく、商業の人間としては大変な時代を迎えているのは確かです。その中で、市と商工会も絡み、まちを活性化させるべく動かないとみんな潰れていっちゃうという思いはあります。

【事務局（小島課長）】

私どもからは以上でございます。

【北山会長】

はい、ありがとうございます。

たった今、事務局から第 4 次計画の最終案について説明がございましたが、ご意見やご質問があればお受けしたいと思います。

ありませんか。

なければ最終案ということで、決定ということでよろしいですか。（全委員了承）

それでは次に、議事の 2 つ目の平成 29 年度の新規事業（案）ということですが、概要版が手元にありますので、これに基づいて事務局からご説明をお願いします。

【（事務局）河田主任】

来年度、第 4 次計画に基づき、新たに取り組む予定の事業について、その概要をご説明させていただきます。

お手元の資料 2 「平成 29 年度新規事業（案）」をご覧ください。

《地域担い手確保・育成プロジェクト》

まず表紙をめくって頂いた2枚目の資料、「地域担い手確保・育成プロジェクト」についてご説明いたします。

この事業ですが、第4次計画の柱の1つである「地場企業等の経営基盤強化」を主に担う取組みでございます。

特に、労働力の確保にフォーカスした取組みでありまして、まずは中段「施策の概要」の左側、＜潜在的労働力の掘り起こし・起業等がしやすい環境の整備＞の「（1）クラウドソーシング活用推進」の部分からご説明いたします。

クラウドソーシングとは、簡単に言うと、インターネット上で仕事の受発注を行う仕組みでございます。実際に受注する側は時間や場所の制約を受けずに仕事をこなすことができる、それこそ政府が進めている「働き方改革」にもつながる取組みだと考えております。

石狩市内でクラウドソーシングを担う人材を集めてチームを結成し、市内も含めた全国の企業などから仕事を受注するといった仕組みを確立することで、今まで時間や場所の制約で働くことのできていなかった市内の主婦層をはじめとした潜在的な労働力を掘り起こしたいと考えております。

こういった仕組みを市内で確立することで、人材不足に悩む地場企業が仕事の一部をクラウドソーシングを活用して外注し、その仕事を担っていた従業員を人手が足りない部署に再配置するなどにより、企業の人材不足の課題にも対応していけるものと考えております。

次に、飛んで右端の「労働力の確保」の「（1）地場企業ニーズの把握」ですが、先ほどの潜在的な労働力確保に対し、こちらはリアルな労働力確保に向けた取組として、まず平成29年度は地場企業ニーズを把握したいと考えております。

地場企業ニーズとして、労働者、さらには後継者といった地場企業が求めている人材についてリサーチし、それを基に翌平成30年度に全国から人材を公募し、地場企業と全国からの応募者とをマッチングさせるイベントの開催を予定しております。

また、関連で、その下の「（2）ママインターンプロジェクトの実施」ですが、こちらは主婦層をターゲットに、現在働いていない主婦層と、そういった層向けに柔軟な働き方を推奨する地場企業とのマッチングを行うことを予定しております。

主婦層が働かない理由の上位に、仕事のブランクが挙げられていることから、そこを手厚くサポートするインターンの実施により、労働力を確保しようというものです。

1つ上に戻って、「（1）地場企業ニーズの把握」の、「②市内における新たな働き方の検討」として、マルチワークの推進を検討したいと考えております。

マルチワークを簡単に申しますと、例えば夏場や収穫期など短い繁忙期だけ人手が欲しいような仕事を組み合わせ、長期的な雇用を生み出す考え方で、こういった取組を市内で実証的にでもできないかを検討していきたいと考えております。

次に、真ん中の「（2）クラウドファンディング活用推進」ですが、これは不特定多数の方から資金を調達する手法でありまして、これを市内で手掛けやすい環境整備を行いたいと考えております。

これにより、市内での創業や起業などをさらに後押ししたいと考えておりますとともに、先程説明いたしましたクラウドソーシングのワーカーや労働力確保で獲得した外部人材が起業等に向けた資金調達としてクラウドファンディングにトライすることも想定しております。

最後に左下の＜新たな労働力の育成＞ということで、これまで申し上げた新たに獲得した労働力の育成、スキルアップについても行っていくことを考えております。

《新石狩ブランドスタートアッププロジェクト》

次に、1枚めくって頂きまして、新石狩ブランドスタートアッププロジェクトについてご説明いたします。

この事業ですが、第4次計画の柱の1つである「石狩のブランド力向上」を主に担う取組みでございます。

まずは施策の概要の左側、＜石狩産品ブランド化に向けた戦略検討＞ですが、本地場企業等活性化審議会、さらには下部組織である産業活性化連携会議の中で、石狩産品のブランド化に向けた戦略を検討するとともに、地場産財を活用した新商品の開発をモデル的に実施するという事で、来年度は地場フルーツを活用した新たな土産品開発に取り組みたいと考えております。

新たな土産品開発については、会議構成員の他、地場果樹園や菓子製造事業者、さらには外部アドバイザーを招聘して取り組みたいと考えております。

次に右側、＜石狩産品の知名度向上及び販路拡大活動の展開＞ですが、首都圏、さらには海外で道内の食材を活用した料理等を提供しているご当地アンテナ飲食店と連携し、石狩産品フェアを開催するなどで地場産品の知名度向上を図るとともに、恒常的な販路拡大を目指した活動を展開したいと考えております。

《地域商店街魅力化モデルプロジェクト》

次にもう1枚めくって頂いて、最後「地域商店街魅力化モデルプロジェクト」について、ご説明いたします。

この事業ですが、第4次計画の柱の1つである「地域コミュニティの活性化」を主に担う取組みでございます。

施策の概要ですが、市内の花川中央商店街をモデル地区とし、その魅力化に向け、市内、道外、さらには海外から大学生を招聘し、商店街関係者と連携しながら、商店街の実態調査、就業体験、イベント企画運営を通じて、最終的には商店街魅力化方策を提案し、それを翌年度以降一歩ずつ進めていくような事業を予定しております。

駆け足となりましたが、平成29年度の新規事業（案）の説明は以上となります。

【北山会長】

ただ今事務局から説明がありました。何かご意見等がありましたらお願いいたします。

これは、それぞれ予算化されたのですか？

【事務局（小島課長）】

現在、来年度の事業として予算要求しているところでございます。来週の月曜日から今年の第1回定例市議会が始まりますので、そちらの方で審議されるということになっております。

【北山会長】

来年度の肝入りの事業が 3 つありますけれども、我々もいろいろ 2 年間審議してきたので、縁のある事業なので、委員の皆様にもぜひご協力頂きたいと思っております。

意見等がなければ、以上でよろしいですか。

以上で 2 つの議案について終了しました。あとを事務局に渡します。

【事務局（小島課長）】

ありがとうございます。

その他で事務局から何点かご説明させていただきます。

先ほど委員の皆様から最終案をご了承頂きました本計画ですけれども、本年度当初、市より審議会に諮問しておりまして、最終的に審議会から市に答申を頂くこととしております。その日程ですけれども、3 月 7 日火曜日の 13 時 30 分からを予定しております。当日ですが、あいにく市長が他の用務で不在のため副市長が対応させて頂くこととしており、北山会長並びに酒井副会長から本計画について答申をしていただく予定となっております。その答申の後、市において内部決定をして、本計画が正式に決定する、といった予定としておりますので、よろしくお願いいたします。

本審議会は今年度の審議会としては本日が最終となっております、次年度の予定ですけれども、次年度は 5 月頃を目途に開催させて頂きたいと考えておりまして、それを皮切りに新年度には計 3 回程度の会議開催を見込んでおります。

それと、本審議会委員の任期が平成 29 年 7 月 24 日までとなっておりますことから、平成 29 年度は委員の改選期ということになりますので、あらかじめご承知おき頂きたいと思えます。またそれぞれの所属団体に対し、委員の推薦のご依頼をさせて頂きたいと思っております。

それと、先ほどご説明しましたが、この審議会の下に各産業関係団体からなる産業活性化連携会議という組織がございます。来年度スタートする新たなプロジェクトにつきましては、こちらの産業活性化連携会議を開催してそれぞれの関係団体の皆様からご意見を頂きたいというように考えております。

先ほど北山会長から事業の予算は、というお話を頂きましたが、予算が確定した後、今のところ 3 月 29 日水曜日の 14 時から産業活性化連携会議を開催させて頂くという事で、皆様の所属団体にご案内を差し上げようと思っております。実はこの連携会議は審議会とは違って別組織でございますので、審議会の委員が出席される可能性もございますし、事務局ですとか、他の方が出席といったような形で、審議会と違って委員を決めておりませんので、その団体からの担当者に出席頂くというような形になっておりますので、よろしくお願いいたします。回数についてはこちらも本審議会と同程度、年に 3 回程度の開催を見込んでおります。

その他今年度の取り組みの報告といたしまして、事務局より 1 点ご説明させていただきます。

【事務局（河田主任）】

お手元の参考資料「平成 28 年度 石狩市における地場産財の知名度向上に関する取組」をご覧ください。

左側の「取組の概要」にあります、浜益の「きむら果樹園」にあります樹齢 100 年を超えるりんご

（紅玉）の原木から取れた希少な実を、ホテルオークラ札幌が「アップルパイ」という形で商品化し、今年1月の1ヶ月間、ホテルオークラ札幌において販売いたしました。

右側に「取組結果」を示しておりますが、1ヶ月間の累計販売個数が261個となり、これまでのマンスリーケーキ過去最高数であった昨年3月の「青森りんごのタルト」の148個を大幅に上回ることができました。

価格も税抜き1つ500円と高価であったにもかかわらず、これだけ販売できたということで、100年りんごという付加価値をお客様に理解して頂けたと感じており、また、浜益の歴史ある果樹園を広く認知して頂けたと考えております。

こうした取組については、今回の単発で終わらせるのではなく、継続的に取り組んでいけるよう、今後も関係機関などに働きかけていきたいと考えております。

今年度の取組報告は、以上になります。

【事務局（小島課長）】

事務局よりの説明・報告は以上ですけれども、今年度の審議会が今回で終了ということですので、委員の皆様から一言ずつ、今回の計画の策定にあたって、またはご自身の団体の活動、また普段感じていること、何でも結構ですので、皆様方から一言ずつコメントを頂きたいと思うのですが、よろしいでしょうか。酒井副会長から順番にお願いして最後会長ということでお願ひします。

【酒井副会長】

こういう新たな取り組みを勉強するというのは一商人としてプラスになるんですね。石狩市のやっていること、やりたいことがどういう流れで進んでいくかという事も勉強になりましたし、やはりその中で自分の将来を含め、今後いろいろな意味で力を合わせながらやっていかないといけないという事を、ある程度期待しています。先程のアップルパイも、このまま終わるのではなくて続けて欲しいのと、来年度石狩市のブランド化に向けたケーキなのかお団子なのかはわかりませんが、開発をして、やはりブランド商品をつくらないと、石狩って鮭のまちだよ、といったところくらいで、何かお土産を持って行った時に、本当に石狩を代表するようなお土産品が出ればもっともっと違うのかなという部分があります。勉強になりましたし、小島さんも河田さんも他の人もかなり勉強しているし、すごく期待を持って私は一商人として見ておりますので、これからもよろしくお願いいたします。

【（事務局）小島課長】

続きまして山本委員お願いします。

【山本委員】

私はあまり発言できなかったのですが、貴重な体験ができたなと思います。石狩商工会議所から代表して出席しているにも関わらず、私は商店街の方が気になっております。特に花川中央商店街で実施する事業が、これからどうなるのかがとても気になっており、見ていきたいと思っています。ありがとうございました。

【事務局（小島課長）】

続きまして、高梨委員お願いします。

【高梨委員】

お疲れ様です。

僕はどちらかというと観光協会という立場で来ているものですから、結構関連することも多くて、こういう労働力の確保についても関係団体ですとか、あと漁師の方農家の方といろいろ関わらせてもらっていて、どうしても人材が不足しているといった部分も多く聞くので、こういった部分で通年でいろいろな形で関わることができれば市民の方にどんどん参加して頂けるという事業がすごくいいなと思っていて、今後の展開がすごく楽しみだというのと、やはり石狩ブランドという、石狩の名前は結構全国的に知られていて、そういう部分もあったんですけど、今回鍋グランプリで埼玉の和光市に行かせていただいたんですけども、そういった時に意外と石狩鍋ってみんな知っているんだと思っていたんですけど、最近は石狩＝鮭って繋がらない方が結構いらっしゃって、「石狩鍋です」って言った時に、「何入っているの？」と、前だったら結構鮭入っていれば石狩鍋だよ、と言われていたんですけど、それが、鮭すら入っていることを知らないっていう方が結構多くて、そういった部分も今後こういう取り組みの中で石狩の名前を全国に、海外にも売っていければと思っていますので、今後ともよろしくお願いします。1年間どうもありがとうございました。

【事務局（小島）】

続きまして、渡辺委員お願いします。

【渡辺委員】

副会長の酒井さんとやや似た感想を持ったんですけど、何もわからないでこう入ってしまって、後悔してたんですけど。商業と農業と両方なものですから、やっぱり自分の身に当てはめて全部受け取ってしまって、広い意味で見ることがなかなか難しかったですね。ただ、浜益の方をいつも意識しているんですけど、非常に不安に過ごしています。これから先のことですけどね。このプロジェクトのことを聞いて、少しは希望を持っているんですけど、どのように進んでいくか、自分の身に全部とらえてしまって、非常に不安を持っていますね。ただ、少しでも進んでいけたら、こういう色々な内容を勉強させて頂いて、希望も少し持っているかなと思います。ありがとうございました。

【（事務局）小島課長】

続きまして、木村委員お願いします。

【木村委員】

札幌信用金庫の木村と申します。いつも大変お世話になっております。
石狩市の金融協会の幹事という立場で出席させてもらっています。

人、物、金の動きの中でご協力させてもらっているんですけども、地域活性化のためにどうしたらいいかと、我々金融機関というのは経済活性化が主たる題目でございますので、なんとか協力できるものはできるだけ協力したい、強いては石狩のためにこれからも金融支援はしていきたいと思っています。特に今は新港の関係で人材不足と、非常に大きな問題を抱えています。手前どもとして何ができるのかと、改めて考えますに、なかなか良い手も浮かんでこないんだとは思いますが、先ほど皆様がおっしゃったように、みんなで知恵を絞って汗を絞ってやればなんとかできるのではないかと、こういうように思っております。

また、ますます少子高齢化になってきてまして、人口減少の問題もかなりあると思います。道の駅なんですけれども、あいろ一どですか、新しい愛らしい名前もできましたので、石狩市全体でこの道の駅を成功させるために、またさっき言ったように全員で力を合わせてやっていきたいと。今後も全面的に金融協会として応援したいと思ってますので、なんなりと言っていただければと思っています。1年間ありがとうございました。

【（事務局）小島課長】

続きまして鈴木委員お願いします。

【鈴木委員】

私は市民から参加ということで、札幌から8年前に参ったんですけど、この会に参加させて頂くことになったのも、自分自身が友達に「石狩って何もないよね」って言うんですね。お土産もドライブもあまり盛り上がらないっていうように言ったのも、私も当時こちらに来て間もなかったんですけども、もう既に数ヶ月でこの良さを十分知ったというか、食べ物おいしい、空気もおいしい、人も優しいというのを、すごく肌で感じていたので、それを何か自分も参加して、お手伝いできることはないかなというところでイコロの会、それからこちらの審議会にも参加させて頂いてました。あと、いろいろな専門家として中小企業の相談を受ける中で、後継者問題ですとか、良いものはあるけど果たしてどうやって売ったらいいんだろうというご相談もここ数年間受けてきた中で、河田さんに先ほどお話しいただいたようなこういう「アップルパイ」ですとかその6次産業というのは絶対に欠かせないものになってくるでしょうし、河田さんみたいな若い方のパワーが一つ加わったことでいろいろな幅広い提案ですとか事業がスタートするんじゃないかと、ちょっとわくわくした気持ちもしておりますので、この後もまたいろいろ活動を見させて頂きたいと思います。いろいろお世話になりました、ありがとうございました。

【（事務局）小島課長】

最後に北山会長お願いします。

【北山会長】

2年間、私のつたない進行で皆様にご迷惑をかけたと思うのですが、事務局も含めてご協力いただきまして、誠にありがとうございました。

この2年間また、前回もやったんですけども、ずっと石狩を見てまして、一番気になったのは

やはり、石狩市が合併して、大きな人口になったんですけれども、残念ながら毎年経済センサスを見ても、購買力、小売業なんですけれども、流出していると。全体的な潜在購買力が850億くらいあると思うんですけど、毎年400億くらいですね、札幌だとか他の地方に出ているのは。そして地元消費の中でも大型店の消費・購買力が大きいので、なかなか先ほど酒井さんがおっしゃったように商店街の個店まで購買力が伸びなくて大変だということなので、ぜひ地元の皆様方の購買力が地元でできるだけ落ちればいいなと、お金が落ちていけばいいなと思っています。

それから地域ブランドになりますが、なかなか息の長いものでして、最終的には地元の企業がそういった地域ブランドをつくって製造して販売して、売上を伸ばしていくというところが目標だと思うので、息の長い事業なものですから、長い目で育てていってほしいなと思います。

2年間いろいろお世話になりました、ありがとうございました。

【（事務局）小島課長】

最後に、事務局を代表いたしまして、産業振興担当部長の百井より一言お礼の言葉を述べさせていただきます。

【（事務局）百井部長】

計画に関しましては去年6月から、これで4回目、様々なご意見を頂いて、計画の形になって参りました。あくまでも計画です、大事な方向性ではありますが、これを実行して、初めて実りがあるということです。ついては、時代の変化は激しいので、またその時々課題に対応するという事で、細かいことは載せないで、大きな方向性をとということですから、まさにこれからこれを具現しなければならないということになります。その一部既に皆様のご意見を基に先ほど新年度の事業の紹介をさせて頂きました。まだまだ幅があります。これまでが良くなかったということではないのですが、これからはさらにその具現をする過程において、皆さんやまたはいろいろな方のご意見をいただきながら事業を組み立てていって実行するということが大事じゃないかというように思っています。

税金を投入して事業を展開するということから、基本的にはしっかり計画性を持って、効果を上げなければならない、これは大前提になるわけですが、この手のものというのは、なかなか答えが一つではないようですし、時には答えが見つからない中で、前に進んで行かなければならないということを考えますと、あまりにも税金が前提になって、前に進まないというよりは、時には勇気を持ってチャレンジしていく事も大事じゃないかなというように思っております。そのためには今日お集まりの方々はお金をたくさん持っている金融機関の方もいらっしゃいますし、それからものを売っている方もいらっしゃいます。それから知恵をたくさん出していただける方も揃っておりますので、ぜひ一緒に、今後ともご協力をいただければありがたいと思っております。

最後に、ちょっと関係ない話になるんですが、我々の関係で今、国や道でも特に進めておりますのが食品ロス、ただ単にもったいないという事だけではなくて、また、食を大事にすることだけでなく、安定的な食べ物の流通にもつながるなど、いろいろな意味があると思うのですが、これからの3月、4月という時期は、いろいろな集まりが多いのではというように思っております。国の大臣なんかは「3010運動」を進めているんですね。宴会が始まってから30分はできる限りお

食事をしましょうと、そのあと懇談をしていただいて、終わりの10分は自席に戻って残っているものを食べよう、ということなのだそうです。そんなご協力もいただけるとありがたいと思っております。

任期までもう少しございますけれども、計画に関してはこれで終了ということになります。大変お世話になりました。

あと答申が残っておりますけれども、ひとまず今日お礼を申し上げまして、会を閉じたいと思います。どうもありがとうございました。

【（事務局）小島課長】

それでは以上をもちまして、平成28年度第4回石狩市地場企業等活性化審議会を終了させていただきます。本日はどうもありがとうございました。

平成29年 3月17日 議事録確定

石狩市地場企業等活性化審議会

会 長 北 山 霍